

NO.	質問内容	回答内容
Q1	原寸図作成・墨付の確認等において、ケント紙（既製品）の使用は可能でしょうか。	競技会場への紙類の持込みは出来ません。 当日課題図を配布します。配布された物を利用して下さい。
Q2	側面図の19番の垂木の木口の断面は立水になるのでしょうか。 同じく19番の垂木の桁芯の向きは木口と角度と同じではないでしょうか。	課題図、側面図の⑯たる木の上部木口断面及び側面桁芯については、たる木の転びに合わせて下さい。公表課題図を訂正します。
Q3	側面図内の⑰広小舞の作図位置について確認です。 間違いないでしょうか。	課題図、正面図、側面図の広小舞の上ば線を修正し、公表課題図を訂正します。
Q4	18と19の垂木の鼻先ですが、18と19の垂木の側面を矩に切った場合か、仮に7番の桁に対して平垂木が入った時に鼻先を矩に切った場合を基準にすればいいのかどちらでしょうか。	課題図の説明になるので回答できません。
Q5	原寸図作成において使用する鉛筆・シャープペンに色付き芯を使用することは可能でしょうか。 または、黒のみでしょうか。	原寸図作成において輪郭線・部材等の識別に色付き鉛筆・シャープペンの使用は可能ですが、色合い等不明瞭にならない様注意して下さい。
Q6	原寸図作成において、平面図からの必要と思われる引き出し線の位置や本数は、個人で違いがあると思いますが、引き出し線の少なさは採点に影響しますか。	採点に付いては回答できません。
Q7	広小舞の展開図の向き（見付け、見返り）は、どちらから描いてもよろしいでしょうか。	現寸図の作成で説明してあります。
Q8	各側面図には木口型を描くとありますが、平面図に広小舞⑲⑳の木口型は描いたほうがよろしいでしょうか。	課題図の説明になるので回答できません。
Q9	墨付けの提出検査に隅木の上端の墨は必要でしょうか。昨年は、競技説明の場で、長野県、鹿児島県から同様の質問があり、削ったあとに墨付けできるのであれば無くても良いとの判断でした。今年の方針をお聞かせください。	上端墨に付いては山削り後、必要な墨付けが出来るのであれば無くても結構です。
Q10	各隅木及び⑲⑳広小舞は、山削り及びくせ削り前に提出検査となっていますが、各隅木の成及び広小舞の幅については、1.5mm程度削った仕上がり寸法で提出し、提出検査後に癖だけを削るという解釈でしょうか。	山削り・くせ削りをする部材に付いては部材成および部材幅を仕上り寸法に削り墨付け後提出検査、検査後山削り・くせ削りです。
Q11	隅木山は、取り合い部の加工後に削ってもよろしいでしょうか。	墨付け提出検査後であれば加工順序は問いません。
Q12	⑦「当日公表」として、配置及び寸法等を一部変更するとあります、支給材料寸法の範囲で、束の高さや峠位置、桁芯の間隔の変更など平面構成や立体構成が幾多にも考えられます。そこで、「課題図に示した勾配は参考図である」という標記は、隅木や垂木の屋根勾配だけでなく、平面図での桁芯、隅木芯、垂木芯の地の間の振れ幅や間隔も変更される可能性があるという解釈でしょうか。当日発表の対応について、回答できる範囲で、ご教示ください。	当日公表に付いては部材配置・寸法・現寸図等の一部変更をすると言う事です。当日公表に付き回答できません。